ワコーパレット

ダイキンのアシスネットサービス

冷凍冷蔵コンテナに標準装備

業界初　遠隔監視で顧客に安心感を

物流機器専門企業、ワコーパレット（社長＝川久保篤氏、本社・大阪市西区南堀江３―14―12）は、冷凍冷蔵コンテナの新たな付加価値サービスとしてダイキン工業と連携し、同社の中温用エアコン／冷凍冷蔵ユニット向けＩｏＴ管理サービス「アシスネットサービス」を標準装備させ、５月からレンタル出荷を始めた。同サービスが冷凍冷蔵コンテナに装備されるのは業界で初めて。

ワコーパレット・コンテナ事業部の大牟田玄太部長は「お客さまに安心して使っていただくうえで機器と温度の異常検知は重要な要素。安価で手軽に導入できる点でアシスネットは冷凍冷蔵コンテナに最適」と標準装備に踏み切った理由を説明する。同コンテナの在庫総数１千基以上と業界トップクラスを誇る同社では、向こう３年間で80％のコンテナに同サービスの標準装備を進める方針で、顧客価値の最大化と他社レンタルサービスとの差別化を図る。

ダイキン工業の「アシスネットサービス」は、空調機や冷凍機の導入側における維持管理を文字通りアシストするもので、室外機にＩｏＴ端末を取り付けるだけでフロン排出抑制法に基づく点検や機器の運転などを遠隔サポートする。異常が発生した場合は「以上お知らせメール」で通知するので迅速な対応が図れる。また、昨年８月22日に同抑制法が改正され、３ヵ月ごとの目視による簡易点検が常時遠隔監視に置き換え可能となったことで導入側の点検時間短縮につながり、省人化も可能だという。

さらに、アシスネットサービスはダイキン工業のフロン排出抑制法ツール（スマホＷＥＢアプリ）「Ｄｆｃｔ（ディーファクト）」に紐づけされているので異常発生の詳細をスマホで確認することもできる。大牟田部長は「食品工場だと、建屋から少し離れた場所にコンテナが設置されていることが多いが、設置現場に行くことなく異常内容を把握したうえで早期の対応が可能なのでお客さまの安心につながる」と話す。

同サービスの装備による利用者の追加料金負担がないのも利点の一つ。ワコーパレットにとっても保有するコンテナの状況をＷＥＢで一括管理でき、業務の効率化が図れるほか、異常発生時には同社担当者もメール通知を受け取れるので顧客への連絡等、サービス品質の向上が見込める。

今年３月、ワコーパレットは、アシスネットサービスを装備したコンテナを兵庫県内の食品加工工場にレンタル納入した。この工場では、更新前は警備会社の異常発生時連絡サービスを利用していたが、複数の冷凍冷蔵庫の警報が一括になっているため、どの機器で異常が起きているのかが分りづらかったという。アシスネットサービス装備のコンテナに更新したことで、異常が発生している機器が迅速に特定でき、メール通知によってトラブル内容を把握したうえで修理依頼できるようになった。この工場ではコンテナを冷凍用３基、冷蔵用１基利用しているが、トラブル対応の迅速化とともに高断熱性のコンテナによって電気代の削減も期待できる状況だ。

プロモーションでは５月24日から26日までグランメッセ熊本で開かれる第１回九州農業ＷＥＥＫの農業資材ＥＸＰＯへの出展に続いて、世界最大級の食品製造総合展である「ＦＯＯＭＡ Ｊａｐ

an　２０２３」（６月６日～９日、東京ビッグサイト）に初出展する。両展とも冷凍冷蔵コンテナ６フィートタイプの実機を展示するほか、ＦＯＯＭＡではカーゴプレスタ、セキュリティーカーゴ、折りたたみコンテナ「ドーリー」、気化式冷風機、プラスチックパレットも展示予定。同社では今回のアシスネットサービスに続いて、オリックスのグループ力を活かして冷凍冷蔵トラックのレンタルサービスを近くスタートさせる計画。これにより低温保管の短納期ニーズに対応していく考えだ。